

- 仙台スクエア - 庭の側の日本

50年前からレンヌ市の姉妹都市である日本の都市、仙台。この春、日本庭園が造園されたモルパ地区のスクエアの名前でもある。この日本庭園は市民参加型予算プロジェクトから生まれた。

当初、仙台スクエアの住民たちは、スクエアの中央にあるが誰も顧みないスクエアの整備を願っていた。住民たちは、レンヌで初めての小さな日本庭園の企画を立て、市民参加型予算プロジェクトに参加するため行動を起こした。レンヌにある様々な日本文化に関するアソシエーション（協会）による支援のおかげで票がたくさん集まった。仙台スクエアの整備のプロジェクトは239中12位になり選ばれた。市の公園・ビオダイバーシティ（生物多様性）課はその専門知識を生かし住民たちと話し合いを重ね、計画を入念に練っていった。それから工事が始まった。結果：550m²しかない面積の中に考えていたものの全てがある。川を見立てて作られた硯石の帯をアーチ型にまたがる木製の赤い橋、そして、禅コーナーと石でできたベンチ、赤い鳥居（木製の門）、何本かの楓、桜、そして最後に植物に隠され、橋の上からしか見ることのできない石製の灯籠が絵の完成を仕上げる。6月の地区住民まつりの際、住民一同がその結果を歓迎し愛でることができた。（エレヌ・タットバン）

- 知る - レンヌ・仙台姉妹都市、50年の友情

科学と研究に熱心な両市は1967年に姉妹都市提携を結んだ。以来、スポーツ、文化、経済、大学の交流が発展した。2017年、両市は姉妹都市提携50周年を祝った。仙台市の郡和子市長が2017年10月にレンヌ市を訪問した際、仙台スクエアの最初の1本目の木の植樹をし、住民たちと会った。